

どんな研究？

LD、ADHD、高機能自閉症・アスペルガー症候群など、知的な遅れはないにもかかわらず学習や行動・対人面において困難をかかえる「発達障害」のある人の「就労準備」をサポートする座学型の学習教材（ワークブック）を開発しています。

特徴は？

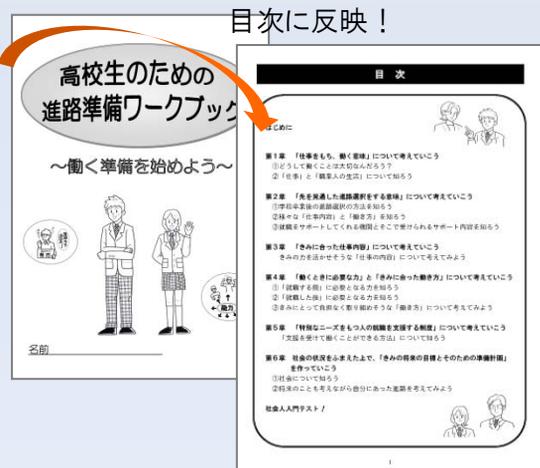
発達障害のある人が、**就労前までに学んでおくべき内容の「全体像」を「目に見える形」**で「**分かりやすく**」学べるようにした教材開発に取り組んでいる点です。このような教材が開発されることで、発達障害のある人が、学校教育段階から、自分では全体像をつかみにくい「**働くことの意味**」や「**働くために必要なスキル**」などについて、その要点を取りこぼしなく学んでいくことができるようになりますと期待されます。

成果は？（研究期間：2008年4月～2010年11月現在）

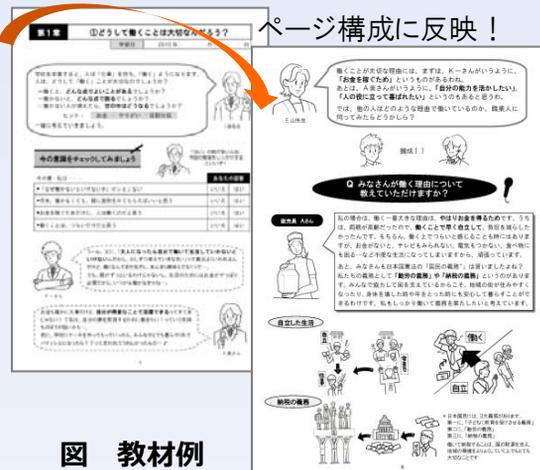
①発達障害のある人の「就労準備に必要な学習内容」として「**職業観・勤労観の形成**」「**将来を見通した進路選択方法**」「**自分の特性に応じた仕事内容の理解**」「**就労時に求められる能力からみた自分に合った働き方の理解**」「**障害者枠での就労に関する知識**」「**社会状況をふまえたキャリア設計に関する知識**」の6つの視点が重要であると分かりました。

②また、その内容をワークブックで分かりやすく学ばせるためには「**分かりやすさ**」「**探しやすさ**」「**実用性**」「**活用しやすさ**」「**正確さ**」「**自尊心への配慮**」「**親しみやすさ**」の7つの視点が重要であると分かりました。

③上述の知見を受け、**ワークブックの目次**を作成するとともに、**各ページへの分かりやすい情報の載せ方**を検討し、まずは、**高校生向け**のワークブックを開発しました（図）。現在は、ワークブックの改良点や有効性を分析する作業をすすめています。



目次に反映！



ページ構成に反映！

図 教材例

どんな研究？

LD、ADHD、高機能自閉症・アスペルガー症候群など、知的な遅れはないにもかかわらず学習や行動・対人面において困難をかかえる「発達障害」のある人の「就労準備」をサポートする**実体験型の教育プログラム**を開発しています。

特徴は？

発達障害のある人が、就労準備を「就労直前」段階からではなく、「**小学校段階から高等学校段階**」に至るまで「**系統的に**」進めていくことができるようなプログラム開発に取り組んでいる点です。このようなプログラムが開発されることで、発達障害のある人が、学校教育段階から、**現在直面している課題の解決に役立つ学びを得つつも、将来への準備も少しずつ計画的に行えるようになる**と期待されます。

成果は？（研究期間：2009年4月～2010年11月現在）

①発達障害のある人が「就労準備に必要な学習内容」を、各学校教育段階で系統的に学べるようにするための「**就労準備教育プログラムの枠組み（理論モデル）**」を作成しました。

②また、その理論を実践につなげていくための各学校教育段階における「就労準備教育プログラムの具体的在り方」については、発達障害のある子どもの「親の会」との連携に基づく実践（図1）を通し検討をすすめていきました。

③上述の知見を受け、初年度に開発することとした**小学生用のプログラム**は「カフェの企画運営」をテーマにし、お客様とのコミュニケーションや、コーヒーの準備などの作業を通し、働く上で必要なスキルの習得や働くことのイメージづくりを行う活動を設定しました。そして、子どもたちへの指導実践を通し、**全10回計画のプログラム教材**（図2）を開発しました。



図1 親の会との連携に基づく実践の様子

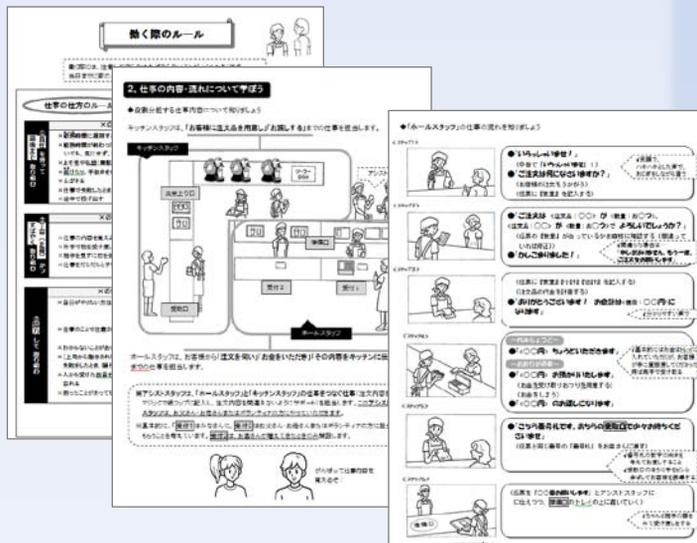


図2 教材例